

カペシタビン服用患者における保湿剤併用処方の有無が治療継続に及ぼす影響

田中 直也¹⁾、村上 紘世²⁾、緒形 富雄³⁾、片山 珠季⁴⁾、永野 悠馬⁵⁾、前田 守⁵⁾、長谷川 佳孝⁵⁾、月岡 良太⁵⁾、森澤 あずさ⁵⁾、大石 美也⁵⁾

- 1)(株)アインファーマシーズ アイン薬局 八尾店
- 2)(株)アインファーマシーズ アイン薬局 宝塚店
- 3)(株)アインファーマシーズ アイン薬局 旭川医大店
- 4)(株)アインファーマシーズ
- 5)(株)アインホールディングス

【目的】カペシタビン(以下、Cape とする)は有害事象として手足症候群が頻発するため、服用患者の QOL 維持や治療期間の継続には皮膚ケアの啓発の他、保湿剤等による支持療法を適切に実施することが重要となる。本研究では Cape 服用患者における保湿剤の併用が服用継続期間に及ぼす影響を調査し、薬局薬剤師が安全かつ効果的ながん化学療法の実現に貢献するための課題を検討した。

【方法】2017 年 4 月から 2020 年 10 月に当社グループが運営する保険薬局 598 店舗に来局した Cape 処方患者 3,434 名を対象に、保湿剤(ヘパリン類似物質(以下、HEPA とする)、尿素外用薬(以下、Urea とする))の処方有無により、保湿剤あり群 2,398 名と保湿剤なし群 1,036 名に群分けし、服用継続期間を Kaplan-Meier 法及びログランク検定で比較した。また、服用期間 60 日間隔毎に、服用継続期間を目的変数、男性、65 歳以上、HEPA 有無、Urea 有無を説明変数とした Cox 比例ハザード分析(有意水準 0.05)を行った(アイングループ医療研究倫理審査委員会承認番号:AHD-0091)。

【結果】服用継続期間は、保湿剤あり群(156 日、95%CI:154-161)の方がなし群(140 日、133-141)よりも有意に長かった。また、Cox 比例ハザード分析では、服用期間 120 日未満で保湿剤の処方有無が服用継続期間と有意に相関したが、それ以上では相関性はみられず、性別や年齢と服用継続期間に有意な相関性がみられた。

【考察】本調査から、服用開始初期の Cape 服用患者への保湿剤の処方は、服用継続期間の延長の可能性、及び服用開始後の期間が長くなると寄与しなくなる可能性が示唆された。薬局薬剤師は服用開始初期の Cape 服用患者については、症状がない段階からの手足症候群の患者啓発と早期発見に努め、保湿剤による支持療法の積極的な提案が重要と考える。

(第 31 回医療薬学会年会(2021 年 10 月, Web)にて発表, 一部要約)